

# 令和4年度 第3回出雲市環境審議会 会議概要

日時 令和4年(2022)11月10日(木) 13:30~16:00

会場 ラピタウェディングパレス 孔雀の間

## 1) 次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事 (1) 出雲市環境総合計画の素案について ……資料1  
(2) 第3次出雲市ごみ処理基本計画の素案について……資料2

## 4. その他

### ① 今後の主なスケジュール

11/21	第3回出雲市地球温暖化対策協議会	計画素案の説明・意見交換
11/28	市議会環境経済委員会・資源政策推進特別委員会との合同意見交換会	両計画素案の説明・意見交換
11/28~12/19	出雲市議会(12月議会)	両計画素案の説明
12月下旬~1月中旬	パブリックコメント	
2月上旬	第4回出雲市環境審議会	両計画案の説明・審議
2月中旬	答申	
3月	出雲市議会(3月議会)	両計画案の説明

### ② 第4回環境審議会の開催について

- ・日時：令和5年2月上旬予定(日時調整後、別途案内)
- ・会場：(今後調整)
- ・議題(予定)：出雲市環境総合計画(案)について  
：第3次出雲市ごみ処理基本計画(案)について

## 2) 出席者

### 【委員】

		氏名	所属・役職等
1	会長	森本 直知	(一財) 大社湾漁業振興基金専務理事
2	副会長	吾郷美奈恵	島根県立大学看護栄養学部教授
3	委員	本田 一勇	出雲市議会環境経済委員会副委員長
4	委員	烏田 富夫	出雲市環境保全連合会久多美支部会長
5	委員	岩崎 知久	環境省環境カウンセラー
6	委員	三島 要	出雲市環境保全連合会多伎支部会長
7	委員	園山 純	前島根県不法投棄監視モニター
8	委員	甲山美紀恵	大社地域自治協会連合会理事
9	委員	山田 康弘	出雲市環境保全連合会伊波野支部会長
10	委員	豊田 知世	島根県立大学地域政策学部准教授
11	委員	山岡 尚	出雲商工会議所専務理事
12	委員	柴田 研司	中国電力ネットワーク(株) 出雲ネットワークセンター所長
13	委員	清水 康子	元平田地域協議会副会長
14	委員	米原 誠	環境マネジメントシステム審査員

### 【事務局】

		氏名	所属・役職等
1		三島 慎也	地域環境部長
2		角 健二	地域環境部次長 環境政策課長
3		園山 博之	環境政策課 ゼロカーボン推進室長
4		青木 保徳	環境政策課 課長補佐
5		金築 敏幸	環境政策課 環境保全係長
6		山根 進	環境政策課 ゼロカーボン推進室 係長
7		日野 恭美	環境政策課 ゼロカーボン推進室 主任
8		森山友香子	環境政策課 環境政策係 主事
9		安田 弘和	環境施設課長
10		江角 裕之	環境政策課 主査
11		江角 健	環境政策課 減量推進係長

### 【委託業者】

		氏名	所属・役職等
1		勝部 祐治	(株) エブリプラン 専務取締役
2		坂本 和隆	日本水工設計(株)

### 3) 議事要旨

#### (1) 出雲市環境総合計画の素案について

- 事務局 事前にいただいた質問は回答一覧のとおりである。  
p. 20～p. 59 は追加の部分があり、差替をお願いしたい。  
また、今回は簡易的な用語集もつけさせていただいた。
- 会 長 議題1「環境総合計画」の素案については、脱炭素社会構築の内容である前半（p. 53 まで）と後半（p. 54 以降）に分けて審議する。
- ① 前半
- 事務局 p. 21 下部について、出雲市の計算が追いついておらず、島根県データを参考につけた。p. 28 以降が新たに追加したところである。2030年46%・2040年65%・2050年カーボンニュートラルを目指すこととした。  
p. 29 は p. 28 目標をグラフ化したもの。詳細は資料のとおり。
- 【訂正事項】 別紙 回答一覧表 p. 2  
【その他業務部門】【家庭部門】における ZEB・ZEH の 2050 年目標  
30% ⇒ 50%
- 委 員 運輸部門の削減取組に省エネ行動がないのはなぜか。  
事務局 省エネ行動によるものは家庭部門のなかに入っている。  
産業部門とその他部門年間削減量は p. 37 の事業者項目を数値化したもの。
- 委 員 実現可能性はどうか、かなり努力しないといけないのではないか。  
風力・太陽光にしても、積極的に市が前に出て推進するようにしないと、机上の空論で終わるのではないか。もっと前向きな施策を入れないと実現可能か心配している。
- 会 長 回答一覧表 p. 4、42-43 ページの項目に関して、質問も出ているように、再生可能エネルギーの導入促進のところで、環境保全条例の設置について必要性も含めて検討というふうなニュアンスで書かれているが、具体的な内容、財政的な予算措置を伺いたい。
- 事務局 ある程度の方向性を示しているが、これから具体的な施策にうつするには財政的裏付けが必要になってくる。国の予算措置・施策は状況によって変動するため、時々に合わせて民間の事業者のみなさんや市の施策に反映させていく予定。施策展開をしていくときには、審議会の皆さんの意見も含めて、行っていく。

- 委員 2、3年に1回の報告書作成だけではなく、中間的に細かく評価・見直しして意見を聞く場を設けてほしい。
- 会長 特に条例化や財政的裏付けについても、委員の皆様の意見・要望をまとめ、審議会の意見として市長へ答申でお伝えしたいと考えている。
- 委員 確認だが、回答一覧表 p.1 一番下の省エネルギー対策について、全事業者に年平均1%以上の低減を義務付けるのか。条例で義務付ける予定か。
- 事務局 小規模事業者についても省エネの取組は必要性が増している。「年0.25%の低減をはかる」ということについては、平均して達成してもらいたいと考えているところ。条例で義務づけはしない方向で考えている。
- 委員 市の宣言・国の宣言としてもゼロカーボンにむかっていくのはいいが、2030年の46%削減というのはすぐくる。早くしないと、市全体の取組に遅れが生じると思う。現在ある技術を使って46%ということなのだろうが、今の技術では将来的に100%削減というのは無理だと思う。CO<sub>2</sub>の固定化や化石燃料をCO<sub>2</sub>として排出しない技術がなければ達成しないのではないかな。
- 事務局 2030年までに何を集中的に取り組むのか書き込んではどうか。
- 事務局 省エネ・再エネ、これだけで達成はしないと考えているが、これらを中心に考えていきたい。
- 会長 2030年はもう間もなくである。一方で、p.3のとおり技術革新のスピードはめざましい。計画期間の中で短期的に見直しをしてほしい。

## ② 後半

- 事務局 誤字脱字・文章の体裁については、次回案までに精査する。
- 【訂正事項】
- |       |                   |     |                     |
|-------|-------------------|-----|---------------------|
| p. 55 | ごみ排出量一人一日当たりごみ排出量 | R8  | 910 g ⇒ 901 g       |
| p. 59 | 有害鳥獣の農林産物に係る被害額   | R3  | 4,496 千円 ⇒ 4,500 千円 |
|       |                   | R8  | 3,147 千円 ⇒ 3,100 千円 |
|       |                   | R12 | 2,698 千円 ⇒ 3,100 千円 |
- p. 68 大気汚染測定値 R8・R12 単位 mg/ℓ ⇒ mg/m<sup>3</sup>
- 委員 p. 11 海岸等一斉清掃参加者数について、特に海岸清掃はどういったところで実施されているのか。環境保全連合会多伎支部・自治協会では7月に6か所500人で実施している。そういった人数も参加者数に入っているか。
- 事務局 海岸清掃参加者数について、前計画の評価としては「×」としているが、p. 60のとおり次期計画でも目標項目とする予定。どのようなところで実施されているかは、全地域である。市外からのサーフィン愛好家や西浜・長浜海岸一斉清掃は1000人程度で規模が大きいですが、多伎、平田、大社では漁協さんも実施されている。集計には当然多伎支部の活動も入っている。

- 委員 回答一覧表 p.5 上から 2 つ目の廃プラスチック処理リサイクル関係だが、少しでも取り組まないといけないのではないかと。境港市でできているという話を聞く。境港市に業者がいるからだと思うが、出雲市単体ではなく県東部でまとめてプラスチックごみを収集することでリサイクルが可能なのではないかと。境港市がどのくらいの頻度でやっていたか等のデータはないかと。
- 事務局 境港市や県内では松江市や大田市が容器包装リサイクルの関係で先駆的に取り組んでいることは把握している。個別の搬入量・排出量は把握していないが、国内で自治体が 1741 あり、うち 1113 が公益財団法人日本容器包装リサイクル協会に出している。出雲市では現在出雲エネルギーセンターで燃やしている。今後は、プラスチックに係る資源循環法という国の指導もあるため、将来的には分別収集していきたいと考えている。ただ、入口は頑張ることができるが、出口として考えたいのは収集後の実態である。令和 3 年度の実績として、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会が収集したプラスチックの 60%が何らかの形で燃やされている。そのため CO<sub>2</sub> 排出量も把握しながら考えていこうと思う。
- 委員 令和 3 年にプラスチックに係る資源循環法ができたということで、これからだと思うが、燃やすことがすべてではないと思うので、将来的には再資源化・エネルギー環境負荷低減を総動員して 2030 年目標に向けて目標項目化してはどうか。
- 事務局 不燃ごみ処理施設 4 か所も経年劣化している。総合的に考えて対応する。
- 委員 p.55 のごみの排出量 1 人あたりの排出量をみているが、2030 年の目標について、1 人が 1 日卵 1 個分のごみが減らしていけるか疑問。  
また、現在のごみ袋について、外国語が多く日本語が小さくなっている。お年寄りが読めないのではないかと。
- 事務局 過去の 1 人当たりの排出量は過去の推移から少しずつ減っている。ごみの中身を調べる組成調査をしたところ、そのままの食品（賞味期限切れ）も捨てられていた。これから食品ロスの取組、水分の水切りといったごみを出すときの PR をすることで減っていくのではないかと考える。  
ごみ袋については、なるべくわかりやすく作るよう努める。
- 委員 やらなければならないことはわかるが、その先の未来が分かると市民にとっていいのではないかと。義務感や押し付けにならないよう、楽しい未来が描けるようにしてほしい。

事務局            メリットの部分、つまり達成した後の姿を描くことは大事だと思っている。  
                         今後盛り込んでいきたい。

小休止10分（15：05～15：15）

## （2）第3次出雲市ごみ処理基本計画の素案について

事務局            事前送付資料のとおり

【訂正事項】 p.2 計画期間 前期・後期の区切りについて

                         令和5年度～令和9年度を環境総合計画と合わせて設定。

                         前期    令和5年度から令和8年度 ⇒令和5年度から令和9年度

                         後期    令和9年度から令和12年度⇒令和10年度から令和12年度

委    員            生ごみだけを回収している自治体はあるのか。徳島で細かく分別回収していることをきいたことがあるが、そこではしていないのか。  
                         可燃ごみの組織構成として、生ごみが37%なら、半分でもいいので回収したらどうか。ペイできないかもしれないが、たい肥化したらどうか。  
                         ここが変わるとグラフが変わるのではないか。

事務局            鹿児島県にあるが、県内や徳島では聞いたことはない。生ごみからのメタンガスを回収している施設は聞いたことがある。たい肥化をやっているところもあるが、たい肥化はとても時間がかかる。コンポストを設置して畑でたい肥化されているところもある。以前は補助金もあったが、コンポストがプラスチック化している関係で安くなってきたので、平成22年度をもって補助金制度を廃止した。今後は環境学習と情報発信に力を入れ、家庭でできるごみの減量に代えさせていきたい。

委    員            回答一覧 p.7 について、計画 p.23 の下水道普及率の50%のところに回答内容のような浄化槽や農業・漁業集落排水等を含める汚水処理人口普及率を付記してもらおうといい。最初に50%とみると、誤解を生じると思う。  
                         回答一覧 p.8 について、計画 p.51 も同様、旧エネルギーセンターの閉鎖作業に伴う経費も含まれているといった注釈部分もつけていただきたいと思う。  
                         一番の問題は、クリーンセンター等老朽化が進んで、修理修繕或いは新設といった問題が出てくると思うが、今の時点の見通しあるか。施設の耐用年数にかかるサイクルはどうなっているのか。  
                         また、ごみ処理手数料の検討について、値上げするときだけ提示するのではなく、1家族当たり一人当たりのごみ処理手数料の情報提供をしてほしい。

事務局 注釈はわかりやすくする。  
処理施設については、4施設について施設の在り方を検討している。現状と将来像を描いたうえで、集約も考えている。計画の中では入れられていないが、在り方計画の中で具体化させていきたい。15～20年が大体のスパンだが、1つ1つの設備については耐用年数ないといわれている。  
ごみ処理手数料については、まさに現在足りないのは、ごみ処理の状況に関する情報発信であると考えている。今後市の処理状況をアピールしていく。

会長 市民意識として、残余年数とリンク付けした啓発してはどうか。

事務局 市全体としての残余年数ならのせられると思う。

委員 ごみの中身調査の結果を公表して、啓発に役立ててはどうか。

事務局 ホームページだけではなく、出雲エネルギーセンターでの見学で特に子供たちに知ってもらうことで取り組んでいきたい。

委員 短期的な目標と長期的な目標の間で具体的な施策の違いが分かりにくいではないか。

事務局 わかりやすい資料作成に努める。

～全体を通して～

委員 環境総合計画 p.59 について、里山林・森林保全活動団体の高齢化により、若手が少なく厳しい現状である。

事務局 森林に関しては、差替の p.43 にあるように森林整備面積及び新規林業就業者数の項目を継続している。今後は森林環境譲与税を活用して循環型林業を積極的に進めたい。森林は所有者、境界がはっきりせず手をつけにくいいため、レーダー調査や台帳整理も行いながら森林整備をすすめようとしているところ。CO<sub>2</sub>削減に森林はなくてはならない要素で、農地にも直接つながる大事な部分である。難しいところではあるが、目標達成に向けて取り組む。